

第2章

まちの誇りを次世代へ伝え育てる 魅力あるまちづくり

第1節 学校教育の充実

第2節 社会教育の推進

第3節 高野山学・高野山創造学

第 1 節 学校教育の充実

現況と課題

本町は、保育所・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学・大学院と幼児教育から高等教育機関まである、全国でも珍しい山上の学園都市です。

また、弘法大師空海の教えを守り伝える 1200 年の密教文化が息づく、歴史・文化・伝統と豊かな自然に囲まれた宗教環境都市で、世界に誇れる町です。

この誇りある町を未来へ伝えるのは子どもたちです。このため、ふるさとの歴史・文化・伝統などのまちの誇りを学び伝えるふるさと教育と、感謝、慈しみや愛情などの宗教的情操を養う教育の充実が重要です。

子どもたちを取り巻く環境は、核家族化の進行、女性の社会進出や晩婚化、未婚率の上昇、結婚や出産・子育てに対する個人の価値観の多様化により変化しています。また、地域コミュニティーの希薄化などを背景に、家庭や地域の教育力の低下が進むとともに、子どもたちの生活にも様々な変化が生じています。

幼児教育

幼児期は将来にわたる人間形成の基礎を養う大切な時期であり、遊びや友達を通じての様々な体験が幼児に心身とも調和のとれた発達をもたらします。そのため、幼児期の早い段階から適切な幼児教育を行うことが大切です。

また、幼児期の教育は家庭でのしつけや教育が重要であることから、保育所などと保護者の連携を密にする取り組みを一層進める必要があります。

本町には私立の高野山幼稚園がありますが、少子化の進行により園児数が急減しています。

一方、子育てを支援する保育所は高野山保育所と富貴保育所がありますが、いずれも入所定員を大幅に割り込んでいます。このため、私立高野山幼稚園と高野山保育所は、合同運動会の実施など幼児期の教育を連携して行ってきましたが、平成 21（2009）年度より少子化に対応する幼児教育の充実のため、幼保一元化の取り組みを具体的に進める必要があります。

園児数・保育児数の推移

	高野山幼稚園			高野町保育所 (定員120名)			
	4歳児	5歳児	計	1-2歳児	3-5歳児	計	入所率(%)
12年度	4	22	26	14	45	59	65.6
13年度	1	20	21	21	48	69	76.7
14年度	7	18	25	13	46	59	65.6
15年度	5	18	23	12	45	57	63.3
16年度	2	23	25	20	33	53	58.9
17年度	0	14	14	8	41	49	54.4
18年度	3	14	17	24	29	53	58.9
19年度	2	18	20	14	31	45	50.0
20年度	3	5	8	14	38	52	57.8

資料：学校基本調査

資料：健康推進課

義務教育

本町には小学校3校、中学校2校があります。児童生徒数は、小学生では平成16(2004)年136名から平成20(2008)年には114名へと減少しています。中学生についても平成16年119名から平成20年には51名へと急減しています。

今後、小学校入学予定者数は、平成21(2009)年度7名、22(2010)年度25名、23(2011)年度16名、24(2012)年度17名、25(2013)年度20名で推移する見通しで、子育て支援など実効性のある少子化対策が課題です。

本町の児童生徒数は、核家族化の進行、子育て世代の町外への流出、結婚や出産・子育てに対する価値観の多様化や女性の社会進出とそれに伴う晩婚化、未婚率の上昇などによる出生者数の減少などの影響を受けて新入学者数が減少しており、花坂小学校と富貴小学校では複式学級となっています。

小 学 校

		児 童 数 及 び 学 級 数														
		1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年		児童数	学級数計	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	計	単式	複式
平成16年	富貴	3	0	1	0	4	0	4	0	2	0	5	0	19	0	3
	高野山	18	1	15	1	18	1	20	1	18	1	17	1	106	6	0
	西細川	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1
	花坂	3	0	1	0	2	0	2	0	0	0	1	1	9	1	2
	計	25	1	17	1	25	1	26	1	20	1	23	2	136	7	6
平成17年	富貴	1	0	3	0	1	0	4	0	4	0	2	0	15	0	3
	高野山	23	1	18	1	14	1	18	1	18	1	18	1	109	6	0
	花坂	2	0	4	0	1	0	2	0	2	1	0	0	11	1	2
	計	26	1	25	1	16	1	24	1	24	2	20	1	135	7	5
平成18年	富貴	0	0	1	0	3	0	1	0	3	0	4	1	12	1	2
	高野山	14	1	21	1	17	1	13	1	18	1	17	1	100	6	0
	花坂	1	0	2	0	4	0	2	0	1	0	1	0	11	0	3
	計	15	1	24	1	24	1	16	1	22	1	22	2	123	7	5
平成19年	富貴	1				1		3		1		3	1	9	1	2
	高野山	14	1	14	1	22	1	18	1	13	1	18	1	99	6	
	花坂	1		1		2		4		2		1		11		3
	計	16	1	15	1	25	1	25	1	16	1	22	2	119	7	5
平成20年	富貴	2		1		0		1		3		1	1	8	1	2
	高野山	18	1	13	1	14	1	20	1	17	1	13	1	95	6	
	花坂	1		1		1		2		4		2		11	0	3
	計	21	1	15	1	15	1	23	1	24	1	16	2	114	7	5

資料：学校基本調査(毎年5月1日現在)

中 学 校

		生 徒 数 及 び 学 級 数									
		1 学 年		2 学 年		3 学 年		生徒数	学 級 数 計		75条
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	計	単式	複式	
平成 16年	富貴	1	1	8	1	5	1	14	3	0	0
	高野山	31	1	37	1	37	1	105	3	0	1
	計	32	2	45	2	42	2	119	6	0	1
平成 17年	富貴	4	0	1	0	8	1	13	1	1	0
	高野山	17	1	31	1	37	1	85	3	0	1
	計	21	1	32	1	45	2	98	4	1	1
平成 18年	富貴	2	1	4	1	1	1	7	3	0	0
	高野山	16	1	18	1	31	1	65	3	0	0
	計	18	2	22	2	32	2	72	6	0	0
平成 19年	富貴	3	1	2	1	4	1	9	3	0	0
	高野山	14	1	16	1	18	1	48	3	0	0
	計	17	2	18	2	22	2	57	6	0	0
平成 20年	富貴	3	1	3	1	2	1	8	3	0	0
	高野山	14	1	13	1	16	1	43	3	0	0
	計	17	2	16	2	18	2	51	6	0	0

資料：学校基本調査（毎年5月1日現在）

その中で、富貴小学校と富貴中学校では平成 18（2006）年度から 3 年間小中一貫教育モデル校事業の取り組みを行っています。小・中 9 年間の一貫した教育指導カリキュラムの開発を行い、学習指導や合同行事、部活動の活発化により学力と体力の向上をめざしています。この取り組みによる成果として、上級生にはお兄さんお姉さん意識が芽生え、情操教育的にも好ましい効果がでています。

今後は、花坂小学校、高野山小学校と高野山中学校との小中一貫教育への取り組みが課題です。

富貴小学校・中学校合同の秋季運動会にて



ふるさと教育

本町は、弘法大師空海の開創以来、真言密教の聖地として古くから日本人の心のふるさととして慕われてきました。また、平成 16 (2004) 年のユネスコ の世界遺産登録以後は、外国人観光客が急増するなど世界の人からも注目されるようになりました。

過去から受け継がれてきた町や地域の歴史、文化、伝統を学ぶふるさと教育は、高野町の次代の担い手である子どもたちに郷土のすばらしさを実感させ、郷土を愛する心や誇り、郷土の発展に貢献する心を育み、将来への夢や希望を育てます。また、日本人としてのアイデンティティー を育てるとともに、国際社会に生きる日本人として必要な資質と自覚を育てます。

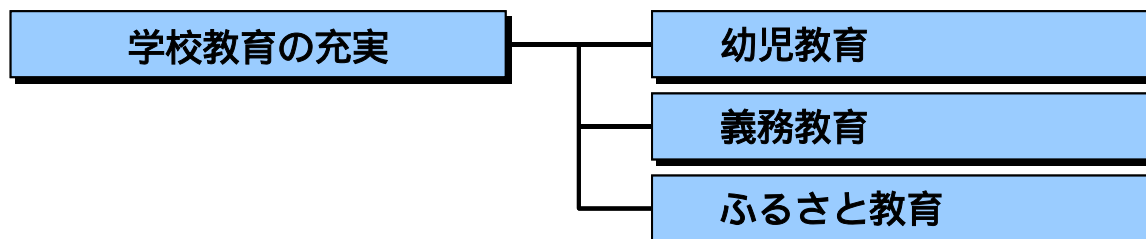
次代を担う子どもたちに、高野山を拓いた弘法大師空海や地域の歴史・文化・伝統などの故郷の誇りを学ぶふるさと教育の充実が必要です。

基本方針

郷土に誇りを持ち、心身ともに健康で、社会の変化に自ら主体的・創造的に対応できる力と、思いやりの心を持ったたくましい人間に育つよう教育を進めます。

また、日本人としてのアイデンティティー を育てるとともに、国際社会に生きる日本人として必要な資質と自覚をもった子どもたちを育てます。

施策体系



基本施策

幼児教育

- ・ 幼保一元化を進めます。
- ・ 幼児期の教育は家庭でのしつけや教育が最も重要であることから、保育所などと保護者の連携を密にする取り組みを進めます。

義務教育

- ・ 小中一貫教育を進め、学力の向上を図ります。
- ・ 思いやりのある心を持ったたくましい人間に育つよう、人権教育の充実を図ります。
- ・ 国際化、情報化に対応できる人間に育つよう教育の充実を図ります。
- ・ 心身ともに健康な子どもたちのための食育の充実を図ります。

ふるさと教育

- ・ 誇りある町を未来へ伝えるため、ふるさとの歴史、文化、伝統などのまちの誇りを学び伝えるふるさと教育の充実を図ります。また、感謝、慈しみや愛情などを育む情操教育の充実を図ります。
- ・ 地域の自然や伝統文化の体験と学習をとおして、豊かな心と学ぶ意欲をもつ子どもの育成に努めます。
- ・ 郷土愛を育む教育の充実を図ります。

第2節 社会教育の推進

現況と課題

生涯学習

高齢化社会や情報化社会を迎え、町民の関心は物質的な豊かさだけでなく、生きがいづくりや、自己実現、心の豊かさの追求にあるように思われます。町民が豊かで充実した人生を送るためには、生涯を通じて自ら学習し、精神的な満足を得ることができる社会環境づくりが必要です。

高野町では、公民館活動を中心に子どもから高齢者にわたる各種の生涯学習活動を実施しています。子どもたちに様々な体験学習の場を提供し、多方面にわたって「興味」、「関心」、「意欲」を持ちながら、心豊かに健やかに成長してくれることを願い、平成14(2002)年から「サンわく学」、大人向け事業としての「大人のサンわく学」を実施しています。

サンわく学天体望遠鏡づくり(協力:高野山天文同好会)



公民館活動では、特別な技術や技能知識などを持つ地域住民の方を「お山の先生」として迎え、生涯学習の講師として活躍いただいています。また、文化活動やサークル活動を積極的に実施すると同時に、地域の各種団体、サークルなどの支援を得て各種事業を推進しています。

今後は、学校と地域サークル、各種団体、婦人会、老人クラブなどの世代にわたっての地域学習の連携を図る必要があります。そして生涯学習で学んだ知識、技能、経験を生かして、地域の課題解決や地域づくりに生かせる環境づくりが重要となってきます。

また、高野山大学の全面協力のもと、今日まで継承してきた高野山の文化を歴史・思想・宗教・芸術・信仰・自然・政治などの様々な視点で体系的に学ぶ「高

野山学」を平成 16（2004）年 4 月に開講するとともに、今後の高野山の在りようを考える「高野山創造学」を開催しています。

人権尊重教育

「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等です。」と世界人権宣言に謳われているこの理念は、人類普遍の原理です。この理念を実現するために各種の対策が講じられ、自分や他人の人権を尊重しようとする意識や態度など、多くの面で成果を上げてきました。

しかしながら私たちのまわりには、様々な予断と偏見から生じる差別などの人権侵害が存在しています。また、社会環境の急速な変化により、人権問題は多様化、複雑化しています。

真に人権が理解され、擁護され、尊重される社会を築くことは、私たちが不断の努力により取り組まなければならない課題です。

町史編さん

明治 22（1889）年の「市町村制」の施行により、東富貴村、西富貴村、上筒香村、中筒香村、下筒香村が「富貴村」となり、相ノ浦村、大滝村、高野山、細川村、西郷村、西ヶ峯村、林村、南村、檜原村、東又村、平原村、杖ヶ藪村、花坂村、湯川村が「高野村」となりました。

その後、高野村は昭和 3（1928）年 11 月、町制を実施し「高野町」となりました。

昭和 33（1958）年 6 月、町村合併促進法により、富貴村と合併して新しい高野町として発足しました。そして平成 20（2008）年には、町制 80 周年並びに富貴村合併 50 周年を迎えました。

こうした激動の明治初期から昭和にかけての本町の変遷の歴史を後世に伝える「高野町史」を編さんするため、平成 10（1998）年 6 月に高野町史編さん準備懇談会（名称：町史編さん協力委員会）を開催しました。平成 12（2000）年 4 月に町史編さん室を教育委員会に設置し、「明治期の村の歴史」から「富貴村と高野町が合併する昭和 33 年」に至るまでの歴史（町史）を編さんしています。

スポーツ・レクリエーション

スポーツ・レクリエーションは、生活の近代化、情報化、少子高齢化など複雑化する社会で発生するストレスや運動不足の解消にとどまらず、体力の向上、健康の増進、子どもから高齢者までの幅広い世代間のコミュニケーションを図ることができるなど、健康で潤いのある生活を送るうえで、重要な役割を果たしています。

このため、世代を越えて町民が体力や年齢に応じて気軽にスポーツやレクリエーションを楽しむ機会や、施設などの場の充実を図る必要があります。

高野町では、中央公民館を始め町民体育館、総合レクリエーションセンターなどの施設整備を行っていますが、多様化する町民のニーズに応じて積極的にスポーツ・レクリエーション活動を楽しめる環境を整備していくことが必要です。

文化財の保存・活用

高野町の文化財は、弘仁7(816)年、弘法大師空海が真言密教の修行道場として開創以来、約1200年にわたって数多くの文化財が守り伝えられてきました。

特に高野山においては、国宝23件含め国指定文化財205件、和歌山県指定文化財40件を数え、今後もなお指定品となる可能性がある文化財が数多く伝えられており、我が国はもとより世界的な密教文化財の宝庫となっています。

一方、高野山の歴史の中で、山内寺院の大半を焼失したと伝わる火災は四度にも及び、文化財にとっても大打撃であったことは想像に難くありません。明治期には廃仏毀釈やそれに追い討ちをかける大火により、多くの文化財が焼失し散逸したことは誠に残念であるといわざるを得ません。

このため、現在まで残された文化財は町民のみならず、全世界の共通の財産として今後とも大切に保存していかなければなりません。昭和36(1961)年より高野山全山総合防災をめざし、指定建造物はもちろん、総本山関係全建造物及び山内全寺院に火災警報器、専用消火栓、避雷針を設置しています。また、防災訓練のほか、火災を出さないよう予防活動を推進しています。

高野町指定文化財件数

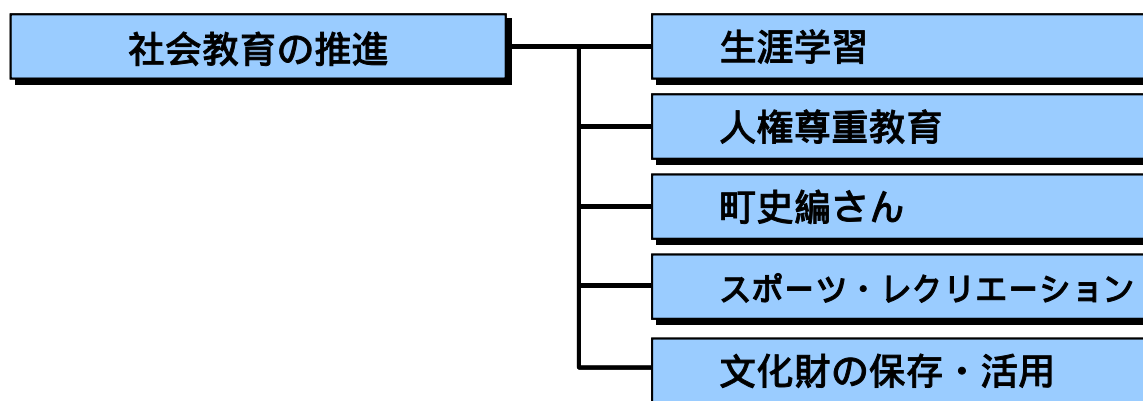
区 分	国 指 定			県 指 定			町指定	登録有形文化財	合 計	
	国 宝	重要文化財	記念物	文化財	記念物	記念物				
	件 点数	件 点数	件 点数	件 点数	件 点数	件 点数				
建 造 物	2 2	11 31		5 16				6 13	27 62	
絵 画	8 21	49 138		12 25					69 184	
彫 刻	2 10	52 81		2 16					56 107	
工 芸 品	1 1	30 79		10 11					41 91	
書跡・古文書	10 4,981	32 13,708		3 2,838					45 21,527	
歴史資料		2 6,042							2 6,042	
考古資料		2 130							2 130	
史 跡			3 3		5 5	1 1			9 9	
名 勝			1 1		1 1				2 2	
天然記念物					2 2				2 2	
合 計	23 5,015	178 20,209	4 4	32 2,906	8 8	1 1	6 13	255 28,156		

資料：和歌山県教育委員会事務局文化遺産課

基本方針

まちづくりにおいて、住民一人ひとりが「高野町に住んでよかった」、「これからも住み続けたい」と思う気持ちと、住民の「まちづくりに参加しよう」とする意欲の醸成が欠かせません。このため、住民一人ひとりが参加できる生き生きとした自主的な学習環境を整備し、様々なプログラムを企画して高野町ならではの社会教育をめざします。

施策体系



基本施策

生涯学習

- ・ 生涯学習推進体制の充実に努め、指導者の育成を図ります。
- ・ 学校と地域サークル、各種団体、婦人会、老人クラブなどの世代にわたる地域学習の連携を進めます。また、生涯学習で学んだ知識、技能、経験を生かかして、地域の課題解決や地域づくりに生かせる環境づくりを進めます。
- ・ 公民館の「お山の先生」登録制度や、大人向け事業として「大人のサンわく学」の活動の充実に努めます。
- ・ 高野山学や高野山創造学との連携を図り、高野山の精神を学習することで、住民参加のまちづくり意識の醸成を図ります。

人権尊重教育

- ・ 「和歌山県人権教育基本方針」や「高野町人権尊重の社会づくり条例」などに基づき、あらゆる機会を通じて人権に関する学習機会の充実を図ります。
- ・ 住民の生活課題と地域課題が直結した学習活動を進めるとともに、自主的・自発的グループ・団体などの育成と活動の促進に努めます。
- ・ 家庭における人権教育の充実を図るため、学校と連携して保護者学級を開設し、様々な人権問題に対する理解と認識を深める教育・啓発を進めます。

町史編さん

- ・ 明治期の村の歴史から富貴村と合併する昭和 33（1958）年までの高野町の歴史の年表・目録、史料編、民俗編、通史の編さん発刊を進めます。その後、現在までの歴史の編さんを進めます。

スポーツ・レクリエーション

- ・ 町民が生涯にわたってスポーツに親しむ習慣を形成するため、各ライフステージに応じた多種多様なスポーツを提供する場を積極的に設けます。
- ・ スポーツ活動機会の充実を図るため、町体育協会や体育指導委員と連携した体力づくり運動、スポーツ教室を開催します。
- ・ 総合型地域スポーツクラブ などスポーツ団体の育成を図ります。
- ・ スポーツ施設の整備を進めるとともに、学校施設の活用を進めます。

文化財の保存・活用

- ・ 文化財の保存と活用について、総本山金剛峯寺、（財）高野山文化財保存会と協働を図り推進します。
- ・ 地域の無形民俗文化財・伝承芸能などの継承と、地域資源の発掘・保存を推進します。

第3節 高野山学・高野山創造学

現況と課題

本町では高野山大学と協力して「高野山学」、「高野山創造学」の講座を開設しています。この講座は、「聖地高野山」の根底に流れる精神を学ぶことによる魅力再発見のみならず、高野町の在りようを考え、まちづくりに生かす際の理念構築につながるものであり、郷土の偉人たちの偉業を学ぶふるさと教育の側面も併せ持っています。

[高野山学]

弘法大師空海が開創して以来、高野山は真言密教の聖地として独自の文化を創り今日まで継承してきました。その文化を歴史・思想・宗教・芸術・信仰・自然・政治などの様々な視点で体系的に学ぶことによって、高野山の根底にある精神を知ることができます。そして「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された今、あらためてその精神を人々に向けて発信していくことが求められています。

このような観点から本講座では、学術的研究機関である高野山大学の全面協力のもと、高野山の文化を体系的に捉え、楽しみながら学ぶことのできる講座をめざしており、町内外から多数の受講生を迎えています。平成20(2008)年度は下記のスケジュールにて実施しました。受講者総数は年々増加し、1,748名を数えるまでになりました。

平成20年度 高野山学スケジュールと受講実績

資料：高野山学運営委員会

	月 日	講義テーマ	講 師	受講者数
第1回	4月19日(土)	密教入門(密教とは何か)	高野山大学 教授 藤田光寛	256
第2回	5月17日(土)	高野山古地図をデジタル画像でみる	高野山大学 准教授 藤吉圭二	222
第3回	6月21日(土)	八大童子にみる心	高野山霊宝館 副館長 井筒信隆	232
第4回	7月19日(土)	密教入門(高野山の年中行事)	高野山大学 教授 藤田光寛	215
第5回	8月16日(土)	高野山の声明	高野山専修学院 監事 加藤栄俊	225
第6回	9月20日(土)	高野山と丹生都比売神社	丹生都比売神社 宮司 丹生晃市	216
第7回	10月18日(土)	院政期の高野山	高野山大学 教授 山陰加春夫	185
第8回	11月15日(土)	弘法大師の思想(真言密教の原理)	高野山真言宗 教学部長 村上保壽	197

受講者総数 1,748

受講者を住所別に見ると、和歌山県外から四割の方々が受講されており、多くの方から支持されている講座となっています。高野町ならではのこの講座は全国的にもユニークであり、今後も継続的開催をめざし支援していきます。

平成21(2009)年度は以下のようなスケジュールで開催を予定しています。

平成21年度 高野山学スケジュール

	月 日	講義テーマ	講 師
第1回	4月18日(土)	弘法大師の仏教理解	高野山真言宗 教学部長 村上保壽
第2回	5月16日(土)	釈尊の行状からみる慈悲の教え	高野山大学学長 藤村隆淳
第3回	6月20日(土)	弘法大師の二つの十住心論	高野山真言宗 教学部長 村上保壽
第4回	7月18日(土)	成仏道としてのご詠歌	高野山金剛流詠監 谷本祥龍
第5回	8月22日(土)	高野山の文化財	高野山五智院住職 山口文章
第6回	9月19日(土)	木食心其と高野山	和歌山県立博物館主査学芸員 前田正明
第7回	10月17日(土)	四国八十八箇所御本尊ご詠歌の成立	高野山大学 教授 下西 忠
第8回	11月14日(土)	日本密教とチベット密教	高野山大学 教授 藤田光寛

[高野山創造学]

高野山は真言密教の聖地として、また世界遺産の地として絶大な魅力を有しているにもかかわらず、現在は危機的な状況に置かれていると言っても過言ではありません。その最も象徴的なものが町内における人口の減少であり、大学における学生数の減少に現れているとも言えます。

この危機的な状況を打破するためには、高野山を開びやくし創造した弘法大師空海の総合的な精神を現在に生かし、高野山を支えてきた周辺集落を含めた高野山文化圏の再生を図るためには何が必要であるのか、といったことについて、現代の社会科学や住民の生活を通して考える必要があります。

そこで、現在も高野山の暮らしに生き続ける密教観を、今後の高野町の魅力発信につなげていくために、内外の各方面から学び、実践、検証することにより「高野山とは何か、そして高野町はどうあるべきか」という未知なる部分を明らかにしつつ、高野山のみならず地域としての高野町再生を考えていくこととし、この未知なるものの一連の探求作業と情報発信のプロセスを高野山創造学と位置付けています。平成20(2008)年度は以下のような活動を行いました。

高野山創造学(平成20年度)

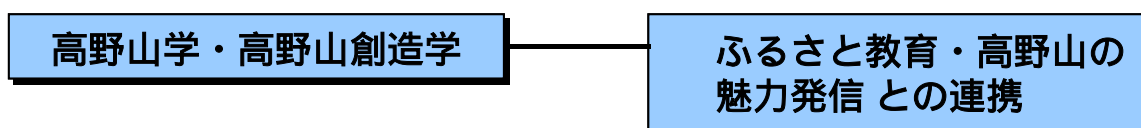
	月 日	場 所	演 題	講 師
第1回	2月26日(木)	花坂多目的集会所	第1回わがらの地域を考える研修会 「車座集會」	飯田市千代地区農家 川手洋造氏
第2回	2月27日(金)	杖ヶ藪龍福寺	第1回わがらの地域を考える研修会 「車座集會」	
第3回	2月27日(金)	東富貴多目的集会所	第1回わがらの地域を考える研修会 「車座集會」	
第4回	3月24日(火) ~ 3月25日(水)	長野県飯田市 千代地区	第2回わがらの地域を考える研修会 「先進地に学ぶ」	長野県飯田市千代地区の農家の皆さん
第5回	3月27日(金)	花坂多目的集会所	農村滞在型交流観光について	新潟県柏崎市観光交流課 春日俊雄氏
第6回	3月28日(土)	東富貴多目的集会所		

資料:高野町企画課

基本方針

「高野山学」や「高野山創造学」などの学びの場を通じて、「聖地高野山」の根底に流れる精神の真髄を「学び・守り・伝える」場とし、次世代を担う人材がまちづくりにおける「基本理念」と「心」を養う場とします。そして同時に高野山の魅力の再発見及び情報発信へとつなぎ、交流人口増大策にも生かしていきます。

施策体系



基本施策

ふるさと教育・魅力発信との連携

- ・ 高野山の精神を守り伝える場として、講座の充実を図ります。
- ・ ふるさと教育の場として活用していきます。
- ・ 高野山の魅力を再発見し、町の魅力情報発信に活用していきます。

高野山学講座（平成 20 年度）

